



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.19

車窓から見た香春岳
(大阪府 Hさん)



【写真について一言】

塩尻～松本間で撮った風景です。青春18きっぷで旅行中に大阪では見ることのない長野らしい景色に思わずシャッターを切りました。遠景の雪のアルプスの山並みが印象的でした。植えられている樹は林檎か葡萄と思われます。





鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.19

車窓から見た香春岳
(福岡県 S さん)



【写真について一言】

平成20年8月、平成筑豊鉄道の田川線勾金駅～柿下温泉駅間で撮影。

香春岳は、五木寛之氏の著書『青春の門』でも紹介されている山で、さらに田川郡出身の赤坂小梅さんが歌った炭坑節にも唄われている。田川の主な産業であったセメントの原料である石灰石を採石し、田川地域の住民に貢献した。また田川線は、トンネル・鉄橋などが数多くあり、唱歌の汽車で歌われている歌詞にピッタリで、私の好きな路線です。

車窓
NO.20

東海道新幹線から見た冬の伊吹山
(茨城県 N さん)



【写真について一言】

東海道新幹線米原駅から数キロ名古屋寄りの地点から撮った冬の伊吹山です。滋賀県最高峰の山であり、日本百名山のひとつでもあります。百人一首にも歌われています(「かくとだにえやはいぶきの さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを」)。

この車窓から見える伊吹山が、今後とも、建築物が建てられることによって遮られることのないように、都市計画、景観計画による規を図るとともに、JRが景観を守るために必要な土地を買って景観保全樹林地として所有すること、が必要であると思われま。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.17

花の春・隅田川
(宮城県 S さん)



【写真について一言】

東武鉄道浅草～業平橋間。満開の桜と隅田川と青い空。春の東京の絶景を浅草駅を出たばかりの電車が見せてくれる。

車窓
NO.18

なにもないのも、いいじゃないか
(千葉県 I さん)



【写真について一言】

写真は、JR東日本岩泉線押角駅。(おしかど) 駅はあるが、駅の周りに道がない、家がない、人がいない。おまけに列車本数は3本しかない。(片道) 景色も山・山・山しかない。今の世の中、なにもないというのも、いいと思います。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.15

只見川・川霧
(宮城県 S さん)



【写真について一言】

只見川には多くの水力発電所がある。只見線はこの只見川の右岸また左岸を併走し、四季折々の美しい山と川の光景を描き出してくれる。

車窓
NO.16

その先に富士
(宮城県 S さん)



【写真について一言】

富士急月江寺駅。線路に行き先に壮大な冠雪の富士。スケールの大きさに圧倒される。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.13

江ノ電市街
(宮城県 S さん)



【写真について一言】

電車と共存する町江ノ電。
江ノ島市街地を走る電車の後尾から。狭い街路だが電車を受け容れる温かみを感じる。

車窓
NO.14

越後平野と越後山脈
(宮城県 S さん)



【写真について一言】

越後平野と越後山脈
只見線。小出を出た只見線が平野区間を走るのはそう長くない。夏の日差しの中を受けて豊かな稔りをたたえる平野の向こうに越後山脈の山並みが待ち構える。夏の午後である。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.11

青
(東京都 うずしお さん)



【写真について一言】

このワクワク感、いくつになっても持ち続けていたい
ものです。

車窓
NO.12

東京駅(東京都 うずしお さん)



【写真について一言】

“始まりと終わり”これは必ずセット売り。
片道券は存在しません。
普段は「空が狭い」と嘆く東京も、やっぱり
ここが一番ほっとします。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.9

特急はくたかより冬の荒波の日本海
(東京都 H さん)



【写真について一言】

新潟県糸魚川～直江津間は、道路と鉄道が近接して日本海際を並走しています。盆暮れの年2回の帰省で眺める車窓は、「夏は真っ青な空と海」、「冬の薄暗い空と荒波」とまったく違った印象で私を迎えてくれます。特に冬の厳しい自然と人工物が対峙しあう車窓からの風景は、厳しい自然環境とそれを切り開いてきた人々へ畏敬の念を感じます。

車窓
NO.10

雨上がりの南阿蘇村(福岡県 N さん)



【写真について一言】

阿蘇山の南麓を走る南阿蘇鉄道の立野駅から終点の高森駅へ。流れ去る風景を心置きなく堪能できるワンマンカーの最後尾は特等席だ。

(カメラのモデル: QV-R61)



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.7

旅情 深浦駅より
(愛知県 老いぼれ銀ぎつね さん)



【写真について一言】

5:40始発「この時間は無人駅になりますので勝手に電車に乗ってください」とタクシーの運転手さんに言われた。列車は一両乗り込んだのは私ただ一人。そんなことで18キップの三日目の押印を忘れてしまい男鹿線に乗り換える追分駅で気がついた。「深浦」の押印が欲しかったので残念がる私に駅員は申し訳なさそうに「追分」を押してくれた

車窓
NO.8

千畳敷ならぬ十畳！
(愛知県 老いぼれ銀ぎつね さん)



【写真について一言】

残念ながら潮が満ちている時で、これだけです。奇岩、珍岩が姿を現す干潮時見てみたいものです。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.5

二等辺三角形が美しい
(東京都 窓側希望)



【写真について一言】

指宿枕崎線(いぶすきまくらざきせん)といえば言わずと知れた開聞岳ですが、いやあ、二等辺三角形のシルエットが美しいですね。

車窓
NO.6

海と空だけ
(東京都 窓側希望)



【写真について一言】

予讃線下灘駅の先を走行中にレールがカーブして車両が右に傾いた瞬間にパチリ。瀬戸内海と空だけのツーショット車窓です。
リバイバル181系特急しおかぜ号で写したもので、今は普通列車のみ運行され特急列車は一本も通りません。
下灘駅といえば、寅さんファンにも、18切符ファンにも、キムタクファンにも有名な駅ですね。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
NO.3

法華津(ほけつ)を駆け上がる
(東京都 窓側希望)



【写真について一言】

予讃線立間駅から下宇和駅方向で法華津(ほけつ)峠を駆け上がっています。トンネルが多い区間ですが、リアス式海岸の特徴である半島と海が互い違いに入り組んでいるのが見て取れます。手前の山肌はみかんの木で、実が色づくともっとも綺麗な景色になります。

車窓
NO.4

しまんと別景色
(東京都 窓側希望)



【写真について一言】

最後の清流と言われる四万十川です。奥の山のサミットがちょっと切れていますが、ご愛嬌ということで。しまんとグリーンライン(予土線)の江川崎駅のあたりでは水量豊富で砂利浜が広がりますが、窪川方向に川を遡ると、写真のような姿を見せる場所もあります。貨車改造車両でガタゴトとお尻に響くトロッコ列車ですが、自然の涼風が気持ちよかったです。

鉄道からの車窓風景特選

車窓
NO.1

帰省の帰り道(仮題)
(東京都 うずしおさん/N700系より撮影)



【写真について一言】

幼き頃、夏休みに田舎の祖母の家へ行く新幹線の旅が大好きで、とりわけ都会では臨めない広い空と一面の田圃を映し出す車窓がお気に入りでした。ですから、今でも新幹線に乗るとなるとテンションが上がり、緑多き車窓、そして旅の終わりを告げる夕暮れのオレンジ色に胸まで染められる想いになります。

車窓
NO.2

太平洋の冬の夕暮れ
(東京都 窓側希望)



【写真について一言】

土佐くろしお鉄道・後免奈半利線(ごめんなはりせん)の車中からデジカメで撮った冬の夕暮れの写真です。太平洋でもこんなに波静かで穏やかな瞬間があるので、まるで鏡のようでした。



鉄道からの車窓風景特選



車窓
番外編

県境 岩館駅より
(愛知県 老いぼれ銀ぎつねさん)



【写真について一言】

この駅より秋田県、津軽ともお別れである列車も乗り換える。線路を歩いて反対側のホームに待つ列車へ。

前方奥に薄く白神山地の始まりが見える。

車窓
番外編

津軽鉄道(走れメロス号)
(愛知県 老いぼれ銀ぎつねさん)



【写真について一言】

津軽鉄道(走れメロス号)津軽中里駅より写す。

- ・風鈴列車(7月上旬より)
- ・ストーブ列車(11月下旬～3月下旬)

五所川原を出発した風鈴列車は太宰治の生誕地金木を経て雄大な津軽平野を奥へ奥へと分け入ります。彼の名作『津軽』では終点の津軽中里からバスで小泊へ向かいます。幼い頃ネイヤとして仕えてくれたタケに会うためです。



鉄道からの車窓風景特選

以下は、サンプルです

車窓
NO.

初雪の山寺
(神奈川県 Sさん/仙山線山寺駅撮影)



【写真について一言】

去年(平成19年)の11月、仙台市と山形市を結ぶ仙山線山寺駅で撮影したものです。ちょうど初雪でした。仙山線は、春・夏は山の美しく爽やかな緑を、秋は紅葉を、冬は雪化粧を乗客に楽しませてくれる、私お気に入りの路線です！



車窓
NO.

「特急はくたか」から見た北アルプス
(東京都 ヒロリンさん/北陸本線より撮影)



【写真について一言】

今年(平成20年)3月、金沢への旅行の帰りに乗車した「特急はくたか」で撮った写真です。雄大な北アルプスの山々の姿に思わず、携帯電話のカメラで撮ってしまいました。まず都心では見ることができない自然の風景です。

